

## 議題2 南海トラフ巨大地震で「ひとりも死なせない」具体策の進め方について

- 1) 熊本地震の教訓として、市は、第1の対策として耐震化の推進と家具転倒防止の重要性を指摘しているが、耐震化の推進策として地域を特定して行う「ローラー作戦」はどのように進んでいるのか。
- 2) 市として、新たな耐震化促進策は検討しているのか。
- 3) 障害者宅の家具転倒防止実施件数は26年度に424件と進んだが、現在、必要件数をどれほどと把握しているのか。達成度はどれほどか。
- 4) 高齢者のみの世帯は約9,800だが、家具転倒防止が実施されているのはどれほどと把握しているか。27年3月には、ダイレクトメール的チラシ等を検討し、実施率を高めたいとの答弁だったが、その後、どのようか。
- 5) 一般世帯の家具転倒防止実施率は平成27年3月時点で30%、愛知県の平均実施率は56%とのことだったが、その後、市の進捗率はどのようか。どのように進めていくのか。
- 6) 各自主防災会に家具固定状況の調査を検討するとの平成27年3月の答弁だったが、調査は行ったのか。これまでに調査した自主防災会があるときくが、その状況は把握しているか。
- 7) 防災コーディネータの群馬大学片田教授は、平成27年2月、家具の固定・転倒防止策は、児童・生徒への防災教育の中で取り組むべきであり、その効果は大きいと指摘、奨励された。その後、学校ではどう取り上げているのか。成果はどうか。
- 8) 第3次あいち地震対策アクションプランでは、平成27年から35年までに家具転倒防止実施率を56%から65%に引き上げるとしている。本市では、これをどう達成するのか。